区分・種別	重要文化財(石造物)		
名　　称	じょうぜんじせきとう 乗禅寺石塔　11基		
所　在　地	今治市延喜		
所　有　者	乗禅寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和36年3月23日		
解　　説	江戸時代の住職隆賢法印(りゅうけんほういん)があみだした、よくあたるといわれる「おみくじ」で有名な乗禅寺(じょうぜんじ)本堂裏の高台に、宝塔2基、五輪塔4基、宝篋印塔5基計11基の石塔がある。正面中央の五輪塔には、地輪に「正中三年」の年紀銘のほか多数の刻文があり、正面右の宝篋印塔の一つにも基礎背面に「正中三年」の年紀銘のほか多数の文字が刻まれている（注　正中三年は1326年）。また向かって左側の宝篋印塔の中には「延文」の年号が刻まれたものがある（注　延文年間は1356～1361年）。これらの石塔は、近くの谷間に散在していたものを、元禄17(1704)年に集めたものである。それぞれ優れた特長をもち、鎌倉時代から室町時代初期にわたる作品が1か所にあるというのはまれなことで、いずれも貴重な石造物である。		